

視察等報告書

三次市議会議長様

報告者氏名 亀井 源吉

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

視察委員会	真正会会派視察
期 間	令和元年10月29日(火)～31日(木)
視 察 先	○福岡県大野城市(市議会) ○宮崎県高千穂町(高千穂あまてらす鉄道) ○福岡県うきは市(市議会)
視 察 用 務	○大野城市 ・公共サービス DOCK 事業について(これまでの取組について) ○高千穂あまてらす鉄道 ・高千穂あまてらす鉄道の運営について ○うきは市 ・アプリ機能をフル活用し人が集まる「仕掛け」づくりについて
概要及び所見	<p>○大野城市 公共サービス DOCK 事業</p> <p>・統合型行政評価システム(公共サービス DOCK 事業)は、地方自治体を取り巻く環境の悪化(①本格的な人口減少、高齢者の増加。②財政状況の悪化。③地方分権改革の進展)により、民間経営理念を採り入れた、成果主義の推進及びスクラップ&ビルド方式による行政経営への転換を目指し、事業の導入を図った。</p> <p><u>D=誰でも、O=オープンに、C=チェックできる、K=環境づくり、を行うこと。</u></p> <p>具体的には</p> <p>①市役所の仕事を見える化する。</p> <p>②職員、市民、専門家など多様な人たちがチェック(診断)する。</p> <p>③様々な視点から診断し、改善、改革に取り組む。</p> <p><u>このことを実践されており、三次市も学ぶべき点が多くありました。</u></p> <p>○高千穂あまてらす鉄道の運営について</p> <p>高千穂あまてらす鉄道株式会社は、かつて宮崎県北部で高千穂</p>

線を経営していた高千穂鉄道から同線の一部を引き継いで運営する目的で設立された会社です。

当初は第1種鉄道事業者となることを目指していたが、計画の妥当性や資金力が問題となり、断念。

一部を鉄道公園の指定を受け、休日に往復5, 1 km間を当初は18人乗りを、現在では、30人乗りのトロッコを運行している。

しかし、運行に当たっては、施設の開放や鉄道橋としては日本一の橋梁の中程に止め、景観の説明や写真を撮らせる、シャボン玉を飛ばせるなど心躍る演出もしている。

また、トンネルではイルミネーションを投影するなど、様々な工夫を取り入れ、現在では年間25,000人前後の観光客を誘致し一大観光地の目玉となっている。

廃線となった三江線もこのような姿になれば、観光客の増加に繋がるものと思う。

○うきは市

- ・アプリ機能をフル活用し人が集まる「仕掛け」づくり

うきは市の「道の駅うきは」へは、年間120万人の観光客が来るが、他地域への流れがないことから、平成27年度からICT新技術を活用した、地域観光支援サービス実証実験を取り入れ、成果を上げている。

このアプリは、市内全域の歴史と観光スポットを巡ってもらうもので、泊まる、食べる、体験、観光、買い物、小学生おすすめルート、パンフレット、地図、スタンプラリー等の情報が自動配信されるものである。

地元の小学校も総合学習でこのアプリを活用した観光ICT教育を実施している。

中でも小学生が作成した「うきはマップ」や「小学生おすすめ観光冊子」はユニークで、三次市も是非取り入れるべき。

このようなアプリは、三次市も酒屋地区へ来た観光客を三次町や他地域への誘導に活用できるものと思う。

真正会 視察等報告書

三次市議会議長 様

報告者氏名 杉原 利明



下記のとおり、視察が終了したので報告します。

視 察 議 員	杉原利明
期 間	令和元年10月29日(火)～令和元年10月31日(木)
視 察 先	大野城市、高千穂あまてらす鉄道、うきは市
視 察 用 務	行政評価システム、高千穂あまてらす鉄道、観光アプリについて
視察先対応者	職員、議会事務局 他
概要及び所見	<p>【概要】 統合型行政評価システムの取り組みを学ぶ。</p> <p>【所見】 民間の経営理念を採り入れ、事業の目的と成果を検証して費用対効果分析等により事業を評価して、選択と集中を進め、市民満足度を高めていく。 事業ごとに目的や成果、数値目標に対する達成度、人件費や共済費等を含めた支出が明記されたフルコスト計算書を作成。 担当課ごと事業ごとに、コンサルや公認会計士、公募市民、財政担当課等にヒアリングを受けて、予算要求やチェックを受ける仕組みも有効であると感じた。</p> <p>【概要】 高千穂あまてらす鉄道による取り組みや運営について学ぶ。</p> <p>【所見】 駅舎や線路を活用できない状況からスタートされ、車両も人力から軽トラ改造車、現在のグランドスーパーカートへと進化させ、乗車数や売上も着実に増やして来られた社員の方達の地域や鉄道への愛や情熱に敬服しました。こういうリーダーがいなければ、事業を運営、発展、継続させていくことは厳しいかもしれない。 日本一の高さを誇る鉄橋の上からの景色は素晴らしかった。この強みが有ることは、PRや集客に結びついていると感じた。 おもてなしの心も肌で感じさせて頂いた。</p>

【概要】

観光アプリ機能をフル活用して人が集まる「仕掛け」づくりを学ぶ。

【所見】

観光アプリをダウンロードして頂ければ、観光客はうきは市の中で、自分の位置から近いお店のクーポンや観光スポット情報が自動で受信できる環境が整う。よって、目的地プラスαの訪問先が増え、観光消費額も上がる効果が期待できる。

私が以前から一般質問等で提言しているシステムを構築されており、三次市でも導入をすればいいという思いに変化は無かった。

また、そのアプリの利用により、観光客の年齢や住まい、訪れたルート等のデータが手に入るため、今後の観光戦略を立てる上で、かなり有益なものである。

様式2号

視察報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者氏名 真正会 齊木 亨

下記の通り、視察が終了したので報告します。

視察議員 真正会：亀井源吉、杉原利明、澤井信秀、桑田典章、鈴木深由紀、横光春市、
齊木亨

ともえ：新家良和、小田伸次、藤井健一郎、弓掛元、片岡幸治

公明党：岡田美津子、黒木靖治

期 間：令和元年10月29日(火)～31日(木)

視察先 29日(火)：福岡県大野城市議会

30日(水)：宮崎県高千穂町・高千穂あまてらす鉄道株式会社

31日(木)：福岡県うきは市議会

【大野城市議会】

研修：公共サービス DOCK 事業について

概要及び所見

大野城市企画政策部自治戦略課 経営戦略係長 中原様

大野城市議会事務局長 佐々木様

市政47年目、人口100,962人、世帯数44,188世帯、面積26.89㎢、職員数429人、

1 活力ある市として

・民間経営理念を採り入れた、成果主義の推進

⇒事業の目的と成果を検証し、決算の基づく費用対効果分析等により事業を評価数値目標の達成度を尺度とした顧客満足度の向上を図る行政経営が必須。

・スクラップ&ビルド方式による行政経営への転換

⇒「集中と選択」をキーワードにスクラップ&ビルド方式による予算編成と施策展開がポイント。

・公共サービスの徹底的な費用対効果の向上が不可欠

2 大野城市公共サービス DOCK 事業 (統合型行政評価システム)

・D：誰でも、O：オープンに、C：チェックできる、K：環境づくりを行うこと

第三者評価による診断体制（経営の視点から客観的かつ専門性の高い評価を行う）

委員構成：公認会計士、企業経営者、社会保険労務士、接遇インストラクター、公募市民委員（2人）、コンサルタント、市職員（財政、行革等）で三つの部会を作り、財務の視点、市民満足度の視点、業務プロセスの視点で診断し、部会でとりまとめた内容を「公共サービス改革委員会」に報告し、大野城市長に評価の結果を報告する。

DOCK 事業の実施に当たり、行政改革と

市役所の仕事を見える化する。

○事務事業を共通化する事で総合計画、予算決算、事務分掌を連携…事務の一体化

3 行政経営の PDCA サイクルと市民参画と公共サービス DOCK 事業の各診断について

4 フルコスト計算書の作成診断の流れ

1年ごとに40事業程度の個別診断と、1グループ（5事業程度）を実施しその事業の適正さを診断。診断書には結果及び改善提案と改善時期を明示。現在までに2億9千万円の予算を削減している。

5 個別診断の流れは（これまでの診断方法の課題）部分最適化の要素が強く全体解決には不十分。複数の事務事業の最適化を検討する必要がある。

○事業概要…目的：何のための事業か。対象：誰を対象にし、受益者は何人か。手段：どんな事業を実施しているか。成果：どのような成果を期待するのか。

○指標を設定…活動指標、成果指標。

○コスト評価…対象者あたりのフルコスト。受益者あたりのフルコスト。市民ひとりあたりのフルコスト。

○人件費…業務量調査に基づき平均人件費×従事職員数で算出

○減価償却費…現金を伴わない支出も算出し、事業全体に架かるフルコストを表示。

様々な視点から診断し、改善・改革に取り組む事ができる。

・市民満足度の高い行政サービスの提供及び効率的な行政経営を目指す。

平成26年から28年度のグループ診断では目的別と性質別の二つの視点で上位目的の優先度と貢献度の診断をし、低い事業のスクラップ&ビルドや予算の配分を検討した。また同一目的を達成するため、部局間を超えた業務連携や情報共有を探り効率と費用対効果の手法の検討をした。

29年度からは性質別のグループ診断のみを行い目的別の診断は行っていない。民間活用の在り方診断は、指定管理者サービスチェックについては最終年度に行い、指定管理業者が最適な担い手であるか、実施効果が施設業者に還元されているかと

いう視点での診断となる。公募非公募の決定や次年度以降の引継ぎの参考としている。

また、補助金サービスチェックは他の自治体との協議で負担割合が決まっている場合を除いて、同様の性質を有する事務事業を集約し、業務プロセスの分析を通して最も優れた手法を採用する。

○グループ診断は複数事業を比較診断することで、相対的な適正コストや最適な業務フローの診断評価を行う事を目的としている。

○グループ診断のくくり方：同一・類似目的または、同一・同種の業務種類になり同一の目的、性質で経常事業を集約する。

○初期診断は実施計画事業を対象に「志関与の妥当性」「手段等の適切さ」「事業の有効性」などの検証を行う。年間15事業程度の診断を行っている。

○業務システム最適化診断は情報広報課のIT政策所管担当になっている。新たな情報化への対応やさらなる電子決済に向けた中長期計画である。30年度はIT推進計画事業における最適化と導入効果を公共サービス改革委員会に報告し、診断という意見をもらった。

○人財の育成と活用診断は総務課の人事担当課が所管。市職員の人材育成の基本方針と基本計画の人づくり基本構想に掲げる事業の診断を行う。

近年は職員のコスト意識の高まりで改善してきたため、最近では削減できるコストがほとんどない。

所感

大野城市は市域が狭く、公共事業も少ないため、市内各事業の計画を見ると生活に直結するもので、教育関係、子供若者関係、福祉関係、人権問題関係などの事業が大きい割合を占めている。

近隣に福岡市という大きな都市があり、どちらかというベッドタウンという環境にある。農林業関係は少なく、大きな河川もないため災害関係は少ないので、市の事業の効率的な予算の使い方は大きな関心を持たれている。

三次市において各種事業の効果的なチェックは必要であるが、中山間地における農業、林業、漁業、観光関係の事業のウエイトが大きく、それぞれの事業に対して効果を求める評価は難しい。

【高千穂あまてらす鉄道株式会社】

宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井 1425-1 (旧高千穂駅舎内)

概要及び所感

概要

《あまてらす鉄道ホームページより》

代表挨拶



私たち高千穂あまてらす鉄道は、高千穂鉄道の廃線をうけて、2008年3月に創立しました。はじめは駅舎や線路の活用さえできない状態だったのですが、翌年から認められ、動力なしの木製トロッコを人力で押すところからはじめました。駅構内限定です。

私たちの当面の願いは高千穂駅から2.5キロ先にある現在でも鉄道橋としては日本一の高さ(105メートル)に架かる高千穂鉄橋を渡ることでした。それが実現したのが2013年夏休みからです。お金のない私たちにどんな車両が走らせられるのか。考えた末に、軽トラック改造車両を2台連結して走らせはじめたのです。定員18名の小さな乗り物が、たびたびの故障に見舞われながら、毎年25,000人前後のお客様を鉄橋までお連れするようになりました。

現在は30人乗りのグランド・スーパーカート(GSC)を運行させています。動力車は空港で荷物を運んだりしているトーイング・トラクターというもので、2500ccの強力なエンジンが搭載されています。床には強化ガラスを敷いて、105メートルの高さを実感していただき、二つのトンネル内では美しいイルミネーションを楽しんでいただいています。軽トラ改造車も、連休や夏休み以外の毎週水曜日に運行しています。

往復5.1キロメートル、約30分の小さな旅です。沿線から眺められる新緑や紅葉の美しさ、初夏には珍しい渡り鳥の姿が鉄橋から眺められるかもしれません。盛夏の頃の燃え立つような万緑、大峡谷から渡ってくる風の涼しさ。高千穂駅にもどって来られたときの皆様の笑顔を見るたびに、私たちはうれしくなります。そして、あきらめずにやってきてよかったと、胸がいっぱいになります。

ぜひ、お出かけください。

高千穂あまてらす鉄道株式会社

事業内容

- 高千穂駅～高千穂鉄橋までの往復 5.1 キロメートルの列車遊具による運行
- カフェテラスの運営
- 地元の雇用拡大

質疑応答



専務取締役 斉藤拓由氏

Q1 鉄道資産(施設)の所有者はどなたですか？

A 廃線後、各沿線自治体に高千穂鉄道敷地は譲渡された。したがって高千穂町が所有している。

Q2 所有者が自治体であれば管理の所在は？

A あまてらす鉄道は敷地、施設を借りているだけであり、施設に係る設備の維持管理経費(枕木・運転体験時に使用する TR202 の修繕費)は、あまてらす鉄道が支払っています。平成 28 年度より実施している。枕木交換費用だけで現在 3,000 蔓延ほどかけている状況です。

Q3 運営期間は何年を想定されていますか？

A 高千穂町との賃貸契約は 1 年更新としています。弊社としては、鉄道の復活を願いながら末永く運営していきたいと考えています。

Q4 施設や資産の保守点検はどなたがされているのか、また、この列車運行に必要な資格はどのようなもので対応されていますか？

A 施設については、運行前、線路点検等は弊社職員が行っています。弊社職員で対応できない場合は専門業者に保守をお願いします。このカートに有する免許はありません

んが、社内訓練試験を行い、管理者が許可を出して運転を行っています。

Q5 当初、運営基金の少ない中で経営していくのに、資金集めは株式の発行でされましたか、また、他の方法がありましたか？

A 当初、株式発行も行っていましたが、高千穂鉄道を復興させる支援金で運営を行っていました。鉄橋までの運行許可、カートの増員等により資金調達ができる様になり、現在に至っております。

Q6 売上と訪問客の推移を教えてください。

A

	備考	入場者数	乗車数	売上金額 (円)
H22	エンジンカート導入	4,376	3,012	1,942,850
H23		5,008	3,475	2,604,250
H24	軽トラ・天空号導入	5,015	3,669	2,733,000
H25	軽トラ・天空号導入	11,149	9,824	10,075,900
H26	軽トラ・ハヤタケル号導入	18,337	16,396	19,323,400
H27	カフェ設置	26,792	23,986	28,650,500
H28	軽トラコノハナ号導入・ 枕木 100 本交換 沿線除草 3 回・熊本地震	23,790	21,774	24,558,800
H29	グラウンド・スーパーカート導 入・除草 3 回・駐車場整備 枕木 120 本交換	43,027	41,086	48,975,500
H30	沿線除草 3 回 枕木 100 本交換	54,074	52,086	62,116,500
R1(6ヶ月)	バラスト散布・沿線除草 3 回・運賃改定 7 月 枕木 100 本交換	35,574	34,161	43,635,600

Q7 現在のグラウンド・スーパーカートを採用された経緯を教えてください。

A 当初駅構内だけの利用という条件で、手押しのトロッコでの運営を行っていました。町との交渉後、少しずつ延伸を行い、2,013年の鉄橋までの利用を得ました。鉄橋までの延伸に伴いお客様の数も増えていき、多客対応の為、現状のカートとなりました。カート導入の際、他鉄道会社の中古保守用車購入案もありましたが、運転のし易さ、車両の重量を考え、現在のグラウンド・スーパーカートの導入になりました。

Q8 高千穂鉄橋の譲渡を受けられていますか、もしそうであれば、将来、この運営が廃止されたとき想定される解体費と鉄橋の撤去はどなたがされますか。

A 施設の持ち主は高千穂町となっています。鉄道撤去基金積立(宮崎県・沿線自治体)が令和2年度で終わりますが、高千穂町と高千穂鉄橋の利活用を現在考えています。

Q9 将来、撤去などに使われる基金などを留保されていますか？

A 施設は高千穂町から借り受けしているもので、撤去などに使われる基金は留保しておりません。

Q10 施設維持管理としてどのようなものがありますか。例えば、線路敷地の草刈や線路の点検、建物の管理、橋梁などの塗装はどのようにされていますか？

A 線路敷地の草刈などは、弊社スタッフで行い、スタッフで対応できない場合は業者に委託を行っています。また、線路の点検については、現在使用している線区については、高千穂鉄道時代に入っていた業者に委託し定期的に点検を行っています。(今後、6ヶ年計画で老朽化した枕木交換と道床突き固めを実施予定…弊社負担)建物、橋梁については高千穂町から借受けしているもので、町との協議の上対応を行っています。

Q11 安全対策について線路・橋梁への対策はどのようなものですか？

A 線路点検については、定期的に専門業者に依頼しています。また、毎日のカート運行時に、動揺、異音等が発生した場合、直ちに現場確認を行い、職員で対応できない場合は、業者への依頼を行っています。橋梁の強度計算については、高千穂町の方でコンサルタントを入れて問題などの解答の上、運行を行っています。

運行に際しての運転士の教育は訓練という形で一ヶ月に一度、また、運転安全規範、異常時の運転取扱い。グランド・スーパーカート操作手順書を作成し、安全対策を行っています。

Q12 市からは負の遺産といわれていますが、その考え方に対して何か感じられることがあれば教えてください。

A 考え方次第だと思います。何も活用せず、放置していれば莫大な撤去費用等がかかり負の遺産と考えると思いますが、ただ漠然と線路活用するのではなく、鉄道の歴史と文化を少しでもお客様に知っていただき、またその地域にいらしたお客様が長い時間、滞在していただける様な空間づくりを考え運営を行っています。現在、高千穂あまてらす鉄道のお客様は少しずつ増えてきていますが、もし、今この事業が衰退していれば結果論でものを言われていたかもしれません。弊社スタッフ少人数ですが、知恵を絞りながら少しずつ、少しずつ発展させるとともに、お客様に楽しんで帰っていただくことをモットーに職員・関係者が一体になって現在に至っています。会社としてはいまからの組織だと思いますが、今以上にお客様に楽しんでいただくと共に高千穂地域の一つの観光地として、日々努力をして参ります。

所感

この地域の観光は神話の時代から始まる天の岩戸伝説に因む神社、地形の妙である高千穂峡があり人を引きつけるスポットもたくさんある中で、廃線を利用した鉄道公園がこれらと違った体験型の人気スポットになっている。

訪問客に合わせて少しずつ施設の規模を拡大し、無理な投資でなく身の丈に合った経営をされているのが良くわかった。年間の訪問客が7万人になろうかとする人気ぶりは、有名な観光地もない三江線沿線には江の川の素晴らしい眺めがあり、それを生かした風を切る爽快なトロッコ列車やレールマウンテンバイクなどはこれまでの三次市の観光にない、これからの体験型の観光地として生かされるのではないかと思った。JR 西日本から支援金として撤去すべき橋梁の解体費の7割と、30年分の年間維持費を計上しており、計画のある伊賀和志駅区間の利用は何十年間の計画を立てた中で、維持管理費分で指定管理すれば運営は可能なのではないか。

また、市も JR 西日本の出す支援金を基金にし、撤去しなければならない橋梁の撤去計画を立て、不足分はふるさと納税などで基金を設ければ、譲渡を受けて活用したほうが関連する沿線地域の活性化になると考える。

※何もしない方が全くの負の遺産となる。

【うきは市議会】

研修：アプリ機能をフル活用し人が集まる「仕掛け」づくりについて

概要及び所感

概要：福岡県うきは市 挨拶 議会事務局長 石井様

令和元年9月末現在

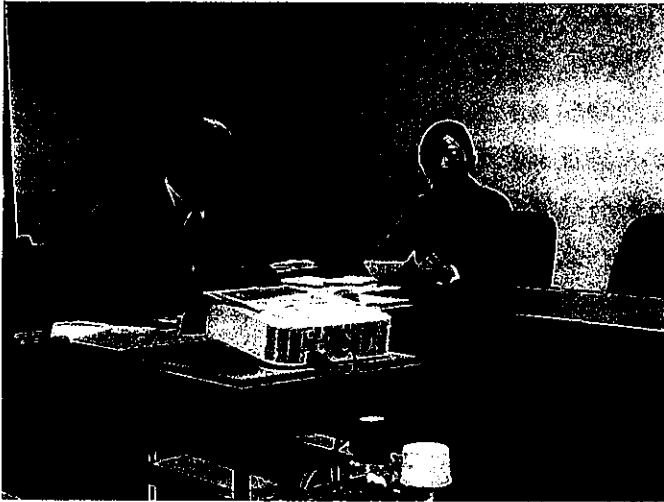
平成17年2町合併、人口29,354人、世帯数11,085人、市域面積117.

46km²、耳納連山が南側、北側に温泉2箇所、議員定数14人、水道普及率98%、

農業が主産業(柿、梨、ブドウ、お茶、他フルーツ、地質がボルドー・アルザス地方とよく似ている、じゃらん九州版で「道の駅うきは」がランキング一位、

説明員 アプリ機能…ブランド推進課特命担当樋口秀吉氏、

ブランド戦略係長中山一成氏、係松永直子氏



1 うきは市プロモーション動画視聴

うきは市は観光パンフレットをリニューアルし、ターゲットを20～40代の女性にし、コンセプトは「うきはの女子旅」で福岡市内に住む女性がうきは市を訪れることを想定。良質なフルーツが収穫できる環境にあるうきは市の特徴を「うきはテロワール」と称しフルーツのブランド化を推進。フルーツカレンダーに81種類の果樹を掲載。日本棚田百選の「つづら棚田」がある。筑後吉井の白壁のまちなみは、近年では、おしゃれなカフェや雑貨店が増えている。

筑後川温泉・吉井温泉は美人の湯と呼ばれる。そしてじゃらんで一位のうきは道の駅は10億円の売上げがある。

2 情報発信

- ① マスコミへの情報発信でテレビ取材226件、ラジオ取材14件計40件を受ける。
- ② 情報誌への掲載
- ③ SNS等を活用した情報発信
うきは市キャラクター「ウキピー」のSNS

3 観光アプリ

- ① アプリ実施の経緯・取組み
H27年吉井町白壁限定で観光アプリ実証実験を実施
 - ・おすすめルート紹介
 - ・店舗情報掲載
 - ・ビーコン対応のクーポン、スタンプラリー
- ② 共同実施事業者：リサーチアンドソリューション
- ③ 観光アプリ開発プロジェクト概要 実証実験の目的
iPhone/iPadを活用した地域観光支援サービス実証実験

27年から28年で全エリアに拡大、システムに480万円かかった。・・・観光ICT研究は小学生に。ICT教育ふるさとを知って(フィールドワーク、おすすめコース、)店舗の紹介)を小学校5年生が2校で取組み観光学習。

④ アプリ開発プロジェクト概要 実証実験イメージ

地域の観光情報が自動的に来訪者に届く仕組みを表現

これまではガイドブック等で調べ立ち寄り先が1箇所だったのを、立ち寄り先1箇所で+アルファの訪問でスポット情報がビーコンセンサーで自動配信。

4 H28年

- ① 観光アプリの本格実施(うきは市全域へエリア拡大)予算4,800千円
- ② 小学生の観光ICT教育(吉井小学校とアプリを活用した観光ICTを実施。フィールドワークを通した、おすすめコース、店舗の紹介)
- ③ 包括協定の実施(リサーチアンドソリューションと観光振興、ICT教育・産業振興に関する包括協定を締結)

5 H29年

- ① 店舗情報の充実(・広報誌やHPでの募集、観光協会等へのダイレクトメール、店舗訪問による掲載の説明等)
- ② 掲載施設数:約220施設
- ③ 観光ICT教育(市内2小学校と取組みを実施)
 - ・観光学習
 - ・観光マップづくり
 - ・学習発表会
 - ・観光マップをアプリへ反映(人気投票でランキング)
 - ・小学生おすすめ観光冊子を作成(イベント等で配布)
- ④ ダウンロード数UPの取組み
 - ・スタンプラリー企画
 - ・アプリのリニューアル
 - ・チラシ、ポスター等のPRツール

★ダウンロード数は増えている

- ・現在のユーザー数 実績(総計3,694件)
- ・特に女性が多い。ターゲットが多くなっているので狙いは良い。
- ・地区別データは福岡市が多い
- ・ユーザーの導線は耳納の里直売所が多いイチゴ狩りは少ない

★今後の展開

- ・ダウンロード数UP
- ・データを活用した観光戦略

- ・各種情報の集約化
- ・HP, SNSとの連携
- ・観光ICT教育の推進

所感

うきは市は四季折々の多くのフルーツの産地として成り立っている。道の駅うきはは10億円を超える販売高を誇っているが、この地域の気候は果樹の栽培が適しており、生産者が意欲を持って栽培に取り組んでいる。そのため販売に向けた量が確保でき、道の駅うきはの販売増に貢献している。

また、観光アプリを開発し、これは小学生の目で地域の観光を掘り出している。我々大人が気づかない部分が小学生の目で開発されているのは素晴らしい。

訪問客のターゲットが女性に向けているのも、近年、カープ女子ではないが女性ファンが増えると市場が賑わう点は素晴らしい着眼点であると思う。

本市では若い農業生産者が育たない点を課題として捉え、もっと掘り起こしてみる必要がある。年々、市内の産直の販売高が減少する原因が生産者の高齢化と若年農業者の育ちにくい環境を整理して、収益が上がる農業、林業の生産者の育成に市として本気で取り組んでいていただきたい。

令和元年度 三次市議会 真正会視察報告書

委員名	真正会 澤井信秀
視察（研修）期間	令和元年10月29日～令和元年10月31日
視察（研修）場所	1 福岡県大野城市議会
	2 高千穂あまてらす鉄道（株）
	3 福岡県うきは市役所
行政視察を実施するに至った地域課題又は新たな政策実施のための調査目的等	公共サービス DOCK 事業の取組・高千穂あまてらす鉄道の運営状況・アプリ機能を活用し人が集まる「仕掛け」づくりについて視察し、今後の本市の観光客誘致に施策へ向けての提言や、JR 三江線の廃線に伴い利活用策を目的とする。
視察（研修）概要	公共サービス DOCK 事業・高千穂あまてらす鉄道の運営や経緯・アプリ機能を活用し、観光情報発信について説明を受け、その後質疑を行う。
考察及び今後の具体的な行動	<p>1 D=誰でも、O=オープンに、C=チェックできる、K=環境作りを行うことをコンセプトに、市民満足度の高い行政サービスの提供、及び、効率的な運営を目指し、様々な視点から多角的に評価・診断を行う市独自の統合型行政評価システムを作られ、効率的な取組をされている。</p> <p>2 高千穂あまてらす鉄道の取組・運営について感じたのは、漠然と線路活用するのではなく、鉄道の歴史と文化を少しでもお客様に知って頂き、その地域にいらしたお客様が長い時間滞在していただける様な空間作りを考え運営に取組まれている。</p> <p>3 マスコミやアプリ機能・ICT・SNS を上手く活用し、観光情報発信をされている。</p> <p>今回の視察で得た内容を本市の観光等に活かしていきたい。</p>

行政視察等報告（復命）書 1/完

三次市議会 小田伸次議長 様

真正会 桑田典章

行政視察が終了しましたので報告します。

視 察 議 員	会派 真正会・ともえ・公明党		
期 間	令和元年 10月 31日（火） 10時00分～11時30分		
視 察 先	うきは市・うきは市議会		
視 察 用 務	アプリ機能をフル活用し人が集まる「仕掛け」づくりについて		
視察先対応者	うきはブランド推進課 ブランド戦略係・議会事務局		
概要及び所見	<p>アプリ機能をフル活用し人が集まる「仕掛け」づくりについて うきはプロモーション動画を視聴（国内プロモーション用） うきはの観光資源について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. うきは市観光パンフレットについて 2. うきはの観光資源について 3. 「うきはテロワール」について 4. 「フルーツ王国うきは」について 5. 「伝統的建造物群保存地区指定」について 6. 「環境省指定の国民保養温泉地指定」について 7. 「道の駅うきは」について <p>観光情報発信について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マスコミへの情報発信について 2. 情報誌への掲載（県や近隣市町村と連携）について 3. SNS等を活用した情報発信について <p>観光アプリについて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アプリ実施の経緯・取組みについて 2. アプリ開発プロジェクト概要（実証実験の目的）について 3. アプリ開発プロジェクト概要（実証実験イメージ）について 4. 平成28年度の取り組み実績について 5. 平成29年度の取り組み実績について 6. 店舗情報の充実（掲載施設数：約220施設 R1.07.31現在）について 7. 観光ICT教育について 8. 小学生おすすめ観光冊子について 9. 吉井小学校6年生、「修学旅行先で観光PR」について 		

- 10. ダウンロード数UPの取り組みについて
- 11. アプリのリニューアルについて
- 12. チラシ、ポスター等のPRツールについて
- 13. アプリダウンロード数の実績について
- 14. 各種データについて

うきは市議会 委員会室



道の駅 うきは 全景

概要及び所見

所見

うきは市では今後、ダウンロード数UP、データを活用した観光戦略、各種情報の集約化、HP・SNSとの連携、観光ICT教育の推進を考えている。本市でも、市内の学校と連携した観光ICT教育の推進をすべきと考える。

うきは市

面積：117.46km²人口：29,572人（H31年3月31日現在）

世帯数：11,083世帯（H31年3月31日現在）

一般会計決算（H29決算カード） 類型 I-1 種地 2-2

地方税：2,927,732千円（構成比17.2%）

地方交付税合計：5,525,263千円（構成比32.5%）

地方債：1,471,896千円（構成比8.7%） 内臨時財政対策債：416,396千円

歳入総額：17,004,841千円 実質単年度収支：513,950千円

職員数：216人 給料月額：631,665千円 ラスパイレス指数：97.4

標準財政規模：8,944,306千円 財政力指数：0.37

実質公債費比率：9.6 将来負担比率：-

財調基金：5,121,585千円 減債基金：1,006,061千円 特定基金：5,527,789千円

地方債現在高：13,143,336千円

経常収支比率：93.5%

以上



行政視察等報告（復命）書 1/完

三次市議会 小田伸次議長 様

真正会 桑田典章



行政視察が終了しましたので報告します。

	 印		 印
--	--	--	---

視 察 議 員	会派 真正会・ともえ・公明党
期 間	令和元年 10月 29日（火） 14時30分～16時00分
視 察 先	大野城市・大野城市議会
視 察 用 務	統合型行政評価システム（公共サービス DOCK 事業）について
視察先対応者	企画政策部 自治戦略課・議会事務局
概要及び所見	<p>統合型行政評価システム（公共サービスDOCK事業）について</p> <p>市役所の仕事（公共サービス）について D=誰でも、O=オープンに、C=チェックできる、K=環境づくりを行う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本最古の山城がねむる大野城市について 2. 地方自治体を取り巻く環境の悪化について 3. 活力ある市の取り組みについて 4. 大野城市公共サービスDOCK事業について 5. 第三者評価による診断体制について 6. 委員会運営の流れについて 7. 各部会の委員構成について 8. 公共サービスDOCK事業の実施について 9. 市役所の仕事を見える化することについて 10. 行政経営のPDCAサイクルと市民参画について <p>公共サービスDOCK事業の各診断について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フルコスト計算書診断について 2. フルコスト計算書の作成について 3. 質疑通告回答書の作成について 4. フルコスト計算書ヒアリングの実施について <p>フルコスト計算書グループ診断について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ診断のねらいについて 2. グループ診断の導入に至る経緯について 3. グループ診断の括り方①について 4. グループ診断の括り方②について

民間活用のあり方診断、初期診断、業務・システム最適化診断、
人財の育成と活用診断、公共サービス毎のフルコスト計算書、
大野城市公共サービス改革委員会 年間スケジュール予定表



大野城市議会 委員会室

所見

大野城市では市役所の仕事が見えにくい。問題点や改善点が分かりにくいといったことを解決するために、DOCK事業を実施して市役所の仕事を見える化する。職員、市民、専門家など多様な人たちがチェック（診断）する。様々な視点から診断し、改善改革に取り組むことで、「市民満足度の高い行政サービスの提供及び効率的な行政経営」を目指している。

また、職員の大量退職に伴う年齢構成の変化及び年々増大する市民サービスに対応するため、管理職、職員組合、職員で構成する大野城市働き方改革委員会で、職員の「働き方」に関する検証及び取り組み提言を行うことで、職員がワーク・ライフ・バランスを実践できる組織の構築を目指している（現在までの成果として、2億9千万円の削減ができています）。

本市の行財政改革において、今後こういった点を注視したい。

大野城市

面積：26.89^{km²}人口：100,962人 内外国人624人（R1年09月30日現在）

世帯数：44,188世帯 内混合世帯183（R1年09月30日現在）

一般会計決算（H29決算カード） 類型Ⅱ-3 種地1-5

地方税：13,407,316千円（構成比38.2%）

地方交付税合計：2,928,258千円（構成比8.3%）

地方債：3,281,190千円（構成比9.3%） 内臨時財政対策債：1,311,490千円

歳入総額：35,112,122千円 実質単年度収支：283,403千円

職員数：395人 給料月額：1,192,335千円 ラスパイレス指数：101.5

標準財政規模：18,640,073千円 財政力指数：0.81

実質公債費比率：1.0 将来負担比率：-

財調基金：5,172,071千円 減債基金：1,507,930千円 特定基金：8,871,014千円

地方債現在高：21,568,046千円

経常収支比率：86.8%

以上

概要及び所見

行政視察等報告（復命）書 1/完

三次市議会 小田伸次議長 様

真正会 桑田典章



行政視察が終了しましたので報告します。

視 察 議 員	会派 真正会・ともえ・公明党			
期 間	令和元年 10月 29日（火） 14時30分～16時00分			
視 察 先	高千穂あまてらす鉄道株式会社・高千穂町			
視 察 用 務	高千穂あまてらす鉄道の運営について			
視察先対応者	高千穂あまてらす鉄道株式会社 専務取締役 齊藤拓由			
概要及び所見	<p>高千穂あまてらす鉄道の運営について</p> <p>グランド・スーパーカート乗車体験</p> <p>事前質問の回答について</p> <p>国鉄時代から現在の高千穂あまてらす鉄道に至るまでについて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 昭和10年02月21日 国鉄日之影線 延岡～日向岡本開通 2. 昭和14年10月11日 国鉄日之影線 延岡～日之影開通 3. 昭和47年07月22日 (線名仮称) 国鉄高千穂線 延岡～高千穂開通 4. 平成元年04月28日 第3セクター高千穂鉄道株式会社となる 5. 平成17年12月27日 臨時株主総会により高千穂鉄道の経営を断念する 6. 平成18年03月17日 神話高千穂トロッコ鉄道株式会社設立する 7. 平成19年11月 神話高千穂トロッコ鉄道株式会社の解散が宣言される 8. 平成20年01月29日 高山文彦氏が神話高千穂トロッコ鉄道の社長に就任 9. 平成20年04月01日 社名を高千穂あまてらす鉄道株式会社に変更する 10. 平成21年01月 高千穂鉄道株式会社による清算が終了する 11. 平成21年04月 高千穂駅構内の使用が高千穂町より許可され、手押しの特ロッコで駅構内の運行を開始する 12. 平成22年08月 高千穂駅から天岩度駅間の線路利用が許可される 得て、エンジンカートで運行を開始、 13. 平成24年 軽トラック・カート（18人乗り）を導入する 14. 平成26年 高千穂町より高千穂鉄橋の利用が許可される 15. 平成29年03月 グランド・スーパーカートの導入をする 			

概要及び所見

平成 21 年度と平成 30 年度の実績について

平成 21 年度入場者数 2,625 人、乗者数 0 人

平成 30 年度入場者数 54,074 人、乗者数 52,086 人

平成 21 年度売上高 428,400 円、平成 30 年度売上高 62,116,500 円

現在の高千穂あまてらす鉄道について

明治時代に地元住民が国へ陳情を行い 100 年の思いで延岡駅から高千穂駅まで繋がった。70 年間たくさんの人の思い出を乗せた鉄道が廃線になったが、現在はグランドスーパーカートが皆の思い出を乗せて、東洋一の高さと呼ばれていた、高千穂鉄橋まで走っている。

保守・保線について

枕木の交換：100～200 本／年、3.4 万円／本・枕木、鉄橋の枕木は 6 万円／本
 機関 2,500cc DE、休園時に点検（Ring コスト 400 万円／年）燃費 70 万円／年
 その他：土地は高千穂町から借りている。利用料 10,000 円／月
 風速 10 メートル以上で運行を停止する。



左：齊藤さんから説明を受ける。右：乗車風景

所見

何故、高千穂町が町営でしないのか？三江線の跡地利用で、江の川鉄道の話しはあるが、観光色が強ければ強いほど、行政は手をつけないのだろうか。

高千穂町

面積：237.54 ㎢ 人口：12,181 人（R1 年 010 月 01 日現在）

世帯数：5,022 世帯（R1 年 10 月 01 日現在）

一般会計決算（H29 決算カード） 類型 III-0 種地 2-1

地方税：1,045,938 千円（構成比 12.2%）

地方交付税合計：3,620,245 千円（構成比 42.1%）

地方債：590,345 千円（構成比 6.9%） 内臨時財政対策債：191,745 千円

歳入総額：8,607,197 千円 実質単年度収支：-109,683 千円

職員数：142 人 給料月額：419,460 千円 ラスパイレス指数：98.5

標準財政規模：4,664,490 千円 財政力指数：0.24

実質公債費比率：6.0 将来負担比率：-

財調基金：1,638,658 千円 減債基金：71,278 千円 特定基金：1,480,919 千円

地方債現在高：6,829,130 千円

経常収支比率：91.8%

以上

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 鈴木 深由希

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者		経理責任者	印
視 察 議 員	鈴木 深由希			
期 間	令和元年10月29日（火）			
視 察 先	福岡県大野城市議会			
視 察 用 務	公共サービスDOCK事業について（これまでの取組について）			
視察先対応者				
概要及び所見	<p>【公共サービスDOCK事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・D＝誰でも O＝オープンに C＝チェックできる K＝環境作り ・事業実施にあたり市役所の仕事が見えにくい⇒問題点や改善点が分かりにくい⇒市役所の仕事を見える化する。職員、市民、専門家など多様な人たちがチェック（診断）する。様々な視点から診断し、改善・改革に取り組む。 ・コンサルへ委託⇒多角的な視点（市民満足度・財務・人材の育成と活用・業務プロ説）に評価・診断（初期・フルコスト計算書・人材の育成と活用・民間活用のあり方・業務・システム最適化）を行う、大野城市独自の総合型行政評価システム <p>【所見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間経営理念を採り入れた成果主義を打ち出し独自のシステムを構築しているところは大いに評価する。 ・市民サービスに繋がる事業として徹底的な費用対効果を打ち出している。費用対効果の名の下にとにかく市民サービスの低下になりかねないところを改革委員会の設置によるより専門的な評価を元に健全な行政経営を目指している、それが人口減少、生産年齢人口減少による厳しさを増す財政状況の改善を目指す取組は十分参考に価する。 			

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 鈴木 深由希



下記のとおり、視察が終了したので報告します。

会派代表者	印	経理責任者	印
-------	---	-------	---



視 察 議 員	鈴木 深由希
期 間	令和元年10月30日（水）
視 察 先	宮崎県高千穂あまてらす鉄道
視 察 用 務	高千穂あまてらす鉄道の運営について
視察先対応者	
概要及び所見	<p>【国鉄時代から高千穂あまてらす鉄道に至る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高千穂線開通（延岡から高千穂）⇒廃止⇒第3セクター会社へ転換 ・事業団から高千穂町、高森町へ無償譲渡⇒経営断念⇒神話高千穂トロッコ鉄道株式会社設立⇒解散を経て「高千穂あまてらす鉄道株式会社」に改称 ・エンジンカート運行開始⇒軽トラック改造カート導入⇒グランドスーパーカーと導入 ・乗車 3012 人／年⇒8 年で 52086 人／年 <p>【所見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の歴史には地域の人々の苦悩、希望が交錯し、鉄道愛が人々を突動かし現在の高千穂あまてらす鉄道の成功に繋がっている。 ・最低限の財源で常に創意工夫を凝らし、人と人のふれあい、おもてなしを大切にされている姿勢は随所に現れていることに感動。 ・神話の高千穂とした知名度も後押ししているとはいえ、企業努力の賜であると思う。 ・三江線後利用に参考とするところは、運営者のアイディアと熱意であると感じた。

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 鈴木 深由希

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	 印	経理責任者	 印
視 察 議 員	鈴木 深由希			
期 間	令和元年10月30日（水）			
視 察 先	福岡県うきは市			
視 察 用 務	アプリ機能をフル活用し人が集まる「仕掛け」づくりについて			
視察先対応者				
概要及び所見	<p>【うきは市の観光振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光アプリ「あさんぼうきは」導入 目的：ICT 新技術活用他地域と差別化・ブランドづくり・地域の観光知名度・イメージ向上・来訪者数と観光収入の増加 ・観光 ICT 教育：小学校と取組実施⇒地域の観光に関心を持ち魅力を発信、盛り上げるための人材育成を目指す。 ・観光資源：年中多種多様なフルーツが実る「フルーツ王国」観光フルーツ狩りの聖地。 <p>【所見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流人口の伸び悩み⇒関係人口増を目指す。 ・地形、気温等を調査分析⇒科学的分析を元に営業⇒説得力がある。 ・観光協会を解散しDMO立ち上げ、ブランド推進課と二本立てで中心となりやっていく⇒着地型観光を目指しているところは従来の組織にこだわらず、先進的である。 ・自主財源でできるよう、切磋琢磨している。 ・改革とはこのような思い切った転換を言う。 ・アプリの活用はこれからのようであるが、可能性は大である。 ・舵を取る組織運営に、新しい感性が求められている。 			

【所見】

- ・想定外と良く言われるが、いかなる状況が起こったとしても、あらゆる方向から検討された計画は実行を円滑に行うために必要不可欠である。
- ・限られた人材で、多くの避難者に対応することになる公助には限界がある⇒共助とは？を考える、ひとりひとりの意識の向上、丁寧な防災教育が求められる⇒小さな集落単位での共助の確立が近道と考える。
- ・大規模災害を経験した方々の強く生きる力を感じ、教えを元にしっかりとした備えをしたい。

研修会等報告(復命)書

三次市議会議長 様

真正会
横光 春市

下記のとおり、視察研修等が終了したので報告します。

	会派代表者	経理責任者																			
視察議員	亀井源吉 杉原利明 澤井信秀 齋木 亨 桑田典章 鈴木深由希 横光春市 会派ともえ5人 公明党2人																				
期 間	令和元年10月29日(水)																				
研 修 先	福岡県大野城市																				
研修用務	公共サービスDOCK事業について																				
視察対応	議会事務局 事務局長 挨拶 議会事務局 事務局主査 企画政策部 自治戦略課 中原係長																				
市政概要	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">人 口</td> <td style="width: 40%;">令和元年9月末日現在</td> <td style="width: 40%;">100,962人</td> </tr> <tr> <td>世帯数</td> <td>令和元年9月末日現在</td> <td>44,188世帯</td> </tr> <tr> <td>面 積</td> <td colspan="2">26.89km² (市街化区域面積 14.05km²)</td> </tr> <tr> <td>一般会計予算</td> <td>平成31年度当初予算</td> <td>355億8,900万円</td> </tr> <tr> <td>議員定数</td> <td colspan="2">20人・現員 20人</td> </tr> <tr> <td>常任委員会</td> <td colspan="2">総務企画・福祉文教・都市環境・予算の4常任委員会</td> </tr> </table>			人 口	令和元年9月末日現在	100,962人	世帯数	令和元年9月末日現在	44,188世帯	面 積	26.89km ² (市街化区域面積 14.05km ²)		一般会計予算	平成31年度当初予算	355億8,900万円	議員定数	20人・現員 20人		常任委員会	総務企画・福祉文教・都市環境・予算の4常任委員会	
人 口	令和元年9月末日現在	100,962人																			
世帯数	令和元年9月末日現在	44,188世帯																			
面 積	26.89km ² (市街化区域面積 14.05km ²)																				
一般会計予算	平成31年度当初予算	355億8,900万円																			
議員定数	20人・現員 20人																				
常任委員会	総務企画・福祉文教・都市環境・予算の4常任委員会																				
施策の概要	<p>1 活力ある市として</p> <p>① 民間経営理念を採り入れた、成果主義の推進 ⇒事業目的と成果を検証し、決算に基づく費用対効果分析等により事業を評価し数値目標の達成度を尺度とした顧客満足度の向上を図る行政経営が必須</p> <p>② ⇒選択と集中をキーワードにスクラップ&ビルド方式による予算編成と政策展開がポイント</p> <p>③ ・ 無駄な歳出の削減 ・ 成果向上のためのたゆまない改善改革 ・ 協働や民間活用(民間委託・補助金等)による公共サービスの提供</p>																				

- ④ ・ 職員の生産性の向上(少ない職員でより多くの業務をより高い質で)
※さらなる市民サービスの向上と業務効率化を実現するための本格独自の統合型行政評価システム

公共サービスDOCK(ドッグ)事業を構築

2 大野城市公共サービスDOCK事業

①【財務の視点】

- ・フルコスト計算書診断(大野城市は約配分予算)
経常事業の事後評価……枠配分予算の反映

②【業務プロセスの視点】

- ・民間活用のあり方診断
公共サービスの担い手の検証……指定管理者サービスチェック
……補助金等サービスチェック
- ・業務・システム最適化診断(市役所業務)
システムを利用した業務最適化
重複する業務の洗い出し ICT化による業務改善効果の検証

③【人財の育成と活用の視点】

- ・人事評価制度の導入……市民ニーズに対応できる職員の育成
……職員満足度の向上

④【市民満足度の視点】

- ・実施計画事業の事中評価……成果指標・活動指標の明確化
(政策評価の側面もある)

3 第三者評価による診断体制

① 公共サービス改革委員会の設置

公共サービスの質の向上と行政経営の効率化を図るため、市民満足度、財務、業務プロセス、人材の育成と活用の面から市の業務を検証する「大野城市公共サービスDOCK事業」に対し、経営の視点から客観的かつ専門性の高い評価を行う。

② 所掌事務

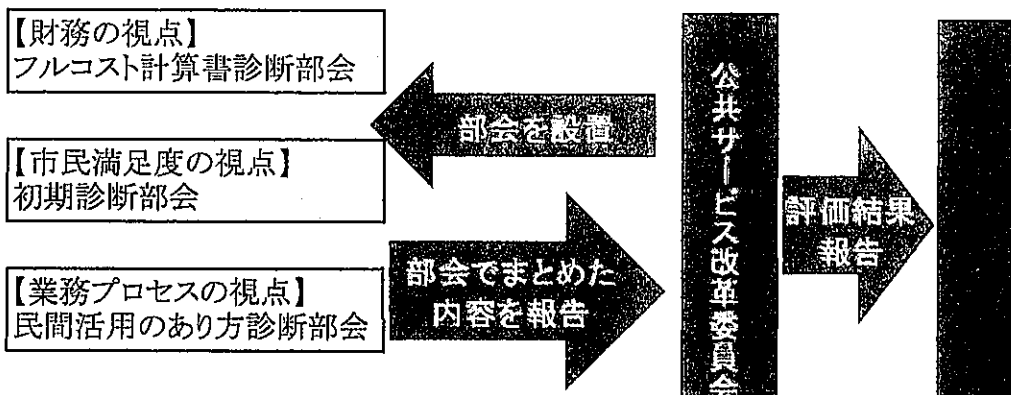
- ・行政評価に関すること。 ・民間活用に関すること。
- ・指定管理者が、管理する施設のサービス評価に関すること。
- ・業務改善に関すること。 ・人材の育成及び活用に関すること。
- ・その他公共サービスに係る重要事項に関すること。

③ 委員構成……委員人数8人

- ・大学教授=1人、公認会計士=1人、企業経営者=1人
- ・社会保険労務士=1人、 接遇インストラクター=1人

・公募市民委員=2人、コンサルタント=1人

④ 委員会運営の流れ



3つの部会では、それぞれの視点からヒアリング等を行い、実施する委員会の下部組織として議論し、診断を行い、委員会へ報告する。

⑤ DOCKとは？

D=誰でも O=オープンに C=チェックできる K=環境づくり

市役所の仕事を見える化する。

職員、市民、専門家など多様な人たちがチェック(診断)する。

様々な視点から診断し、改善・改革に取り組む。

など……

質疑応答

Q 委員の選定方法、民間目線チェックではされるべきであるが、診断の結果、廃止の診断をされても、橋が進まない要因は？

A 選定は市民団体からの推薦された人や、P4 大学の教授、いろいろな視点で診断する必要があり、P4のような有識者と、市民公募である。

また、事業廃止計画になっても、相手がおられ(市民)なかなか難しい。

事業を推進する中で、当初は2億円余の効果があったが、事業が進めば、似通った事業も整理され、廃止診断の事業も少なくなっている。

Q 評価に人件費を出されているが、どのような視点で出されているのか？

A 人件費の金額は概算が良い。こまめにこなうことは難しいし、手間がかかりかえって事業効果が悪くなる。年間に1カ月の業務なら0.1人分とする。

Q 複数事業を整理しまとめることは良いと思うが、その思いは？

A 事業を見直す。事業の目的、効果を見て、同じような事業はまとめている。

Q 指定管理の期間は三次市では3年と6ねんであるが、大野城市ではどのようにされているのか？

A 3年と5年である。最初は3年間で契約を行い、大丈夫であれば5年契約としている。

市と関係の強い団体の場合は5年である。非公募が多い。

診断は、指定管理されている施設へ赴きチェックを行い、その後市役所において担当課の聞き取りを行いながらチェックを行う。

Q 指定管理者が適さない場合。指定を外したことはないのか？

A 議会において否決されたことはない。議会の質問では、非公募の指定管理においての意見が多い。

Q 大野城市は財政比率が良い団体であり、意識改革はどのようにされたのか。多くの職員の意識を変えるのは難しいと感じるが？

A 意識改革には相当のエネルギーが必要であるが、名物職員がいて、改革は進んだ。予算編成において従来は積み上げ方式であったが、その積み上げには相当の時間が必要であるとともに、各課の業務を各課で「マネジメントさせる」という意味合いから、配分方式とした。

配分は、決算の金額を参考としたが、決算において予算残額の半分は、各課に配分することによってマネジメントがよりやりやすくなっている。

Q 委員会の報告を市長にされるが、議会への報告はされないのか？

チェックが進み、事業効果で財政的なものが少ないが、される目的は？
また、報告を受けた市長の反応は？

A 議会への報告はしていない。議員各位は委員会の傍聴やホームページ、図書館でほうくしよを確認するなどして情報を得られている。

また、委員会の状況を踏まえて、一般質問される議員もおられる。議会から報告を求める意見はない。

委員会へ提出する書類やヒアリングは若手の職員に担当させている。そのことにより、職員の育成につながる面がある。

日長は心の広い方で、厳しい指摘に、市民のことをおもんばかって、反対に心配される面もある。

大野城市は、財政的に豊かな地方公共団体であるとともに、市域が「非常に狭く、道路建設や農林業などの改良等の経費も少ないと思われる。

そうした中でも、事業を見直し、財政的に無駄を排し、同じような事業はまとめるなどして市民のための事業推進される姿は評価に値する。

評価指標に人件費を記載することは、本当の事業の状態が把握できると思う。以前、行政職員時代に国民年金の事業報告を行うときに、いくつかの事業を兼務していた時に、それぞれの業務にどの程度かかわっているか、自分の時間配分をしたことがあったことを思い出す。

各自治体において市民ニーズや国県からの業務も多く、スクラップ&ビルドの

考え方は必然である。三次市においても、施設等の建設がお行われるが、他の使用目的を考えたり地元へ任せたりするのではなく、廃止する方向で推進するほうが今後の経済的な負担や、そのことに対応する職員の手間を考えると、より必要と考える。



大野城市庁舎で説明を受ける 真正会・会派ともえ・公明党 の議員



大野城市庁舎前で 真正会・会派ともえ・公明党 の議員

期 間	令和元年10月30日(木)
研 修 先	高千穂あまてらす鉄道株式会社
研 修 用 務	高千穂あまてらす鉄道株式会社の運営について
視 察 対 応	高千穂あまてらす鉄道株式会社 専務 斎藤 拓由 氏
あまてらす 鉄道の概要	<p>*あまてらす鉄道ホームページより</p> <p>私たち高千穂あまてらす鉄道は、高千穂鉄道の廃線をうけて、2008年3月に創立しました。はじめは駅舎や線路の活用さえできない状態だったのですが、翌年から認められ、動力なしの木製トロッコを人力で押すところからはじめました。駅構内限定です。</p> <p>私たちの当面の願いは高千穂駅から2.5キロ先にある現在でも鉄道橋としては日本一の高さ(105メートル)に架かる高千穂鉄橋を渡ることでした。それが実現したのが2013年)夏休みからです。お金のない私たちにどんな車両が走らせられるのか。考えた末に、軽トラック改造車両を2台連結して走らせはじめたのです。定員18名の小さな乗り物が、たびたびの故障に見舞われながら、毎年25,000人前後のお客様を鉄橋までお連れするようになりました。</p> <p>現在は30人乗りのグランド・スーパーカート(GSC)を運行させています。動力車は空港で荷物を運んだりしているトーイング・トラクターというもので、2500ccの強力なエンジンが搭載されています。床には強化ガラスを敷いて、105メートルの高さを実感していただき、二つのトンネル内では美しいイルミネーションを楽しんでいただいています。軽トラ改造車も、連休や夏休み以外の毎週水曜日に運行しています。</p> <p>往復5.1キロメートル、約30分の小さな旅です。沿線から眺められる新緑や紅葉の美しさ、初夏には珍しい渡り鳥の姿が鉄橋から眺められるかもしれません。盛夏の頃の燃え立つような万緑、大峡谷から渡ってくる風の涼しさ。高千穂駅にもどって来られたときの皆様の笑顔を見るたびに、私たちはうれしくなります。そして、あきらめずにやってきてよかったと、胸がいっぱいになります。</p> <p>ぜひ、お出かけください。</p> <p style="text-align: right;">高千穂あまてらす鉄道株式会社 代表取締役社長 高山文彦</p>
概 要 説 明	<p>1 事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設立 平成20年3月15日(2008年) ・高千穂駅～高千穂鉄橋までの往復5.1キロメートルの列車遊具による運行 ・カフェテラスの運営 ・地元の雇用拡大
質 疑 応 答	<p>Q 鉄道資産の施設所有者はどなたですか？</p> <p>A 廃線後、各沿線自治体に高千穂鉄道敷地は譲渡された。従って、高千穂町が所有している。</p>

Q 所有者が自治体であれば、管理に所在は？あまてらす鉄道は指定管理者ですか。

A 指定管理ではない。高千穂あまてらす鉄道の敷地・施設は、高千穂町と普通財産賃貸借契約書を締結して、線路を活用しながら運営している。

施設に係る設備の維持管理費(枕木・運転時に使用するTR202の修繕費)は、あまてらす鉄道が支払う。平成28年度から支払っているが、枕木交換費用だけで現在まで3,000万円の経費がかかっている。

枕木1本の交換費用は3万円から3万5千円必要で、橋梁の枕木は6万円程度必要となり、年間100本から200本交換している。

Q 運営期間は何年を想定されておられますか

A 高千穂町との賃貸契約は1年更新としている。あまてらす鉄道は鉄道の復活を願いながら末永く運営したいと考えている。

Q 施設や資産の保守点検はどなたがされるのですか

A 施設については、運行前に線路点検は職員が行っている。職員が対応できない場合は専門業者に保守点検を依頼している。

Q この列車運行に必要な資格はどのようなもので対応されていますか

A 運行しているカートの運行に関して免許はありません。運転手は社内訓練を行い、管理者が許可した職員等が運転している。

Q 当初運営資金の少ない中で経営していくのに、資金集めは株式の発行でされましたか、また、他の方法があれば？

A 当初、我部式の発行も行っていたが、高千穂鉄道復興支援金で運行を行っていたが、鉄橋までの運行許可、観光客を乗せるカート(32人乗り)増員等により資金調達が可能になり、現在に至っている。

Q 売り上げと訪問客数の推移を教えてください。

A

	入場者数	乗車数	売上額(円)
H23	4,376	3,012	1,942,850
H28	23,790	21,774	24,558,800
H29	43,029	41,086	48,975,500
H30	54,074	52,086	62,116,500

Q 現在のグランド・スーパーカートを採用された経緯は？

A 当初、駅構内だけ利用する条件で許可があり、手押しのトロッコ運行をしていた。

高千穂町と交渉することによって、路線延長が少しずつ延伸され、2013年に現在の鉄橋までの使用許可をいただいた。

鉄橋まで延長したことにより観光客数も増えていき、その対応のためグランドスーパーカート(23人乗り)を採用した。口コミやHP・SNSの広告媒体であるが、外国の方でリピーターもおられ、年々観光客数は増えており、現在1台であるが2台連結での運行を検討している。

また、カートの導入にあたって、鉄道会社の中古車両の購入も検討したが、運転のしやすさ、車両の重量を考慮し、現在のグランドスーパーカート(23人乗り)を採用した。

Q 高千穂鉄道の譲渡を受けておられますか？もし、譲渡を受けていたら、将来、この運営が廃止されたとき想定される解体費用と鉄橋の撤去は誰がさせるのか？

A 施設の所有者は高千穂町で、令和2年度までに鉄道撤去基金積み立てを宮崎県と沿線自治体で積みたてているが、高千穂町は鉄道の利活用を考えている。

Q 将来、撤去等に必要となる基金を留保されていますか？

A 先の質問に対する答えの通りで、会社として基金の留保はない。

Q 施設維持管理費としてどのような費用がかかりますか？例えば、線路敷地の草刈りや線路の点検、建物の管理、橋梁等の塗装はどのようにされていますか？

A 路線敷地の草刈りとは職員で行っている。職員対応ができない場合は業者に委託している。

Q 安全対策について、線路・橋梁への対策はどのようなものですか

A ①線路点検は、定期的に専門業者に依頼して行っている。また、毎日のカート運行時に、動揺、異音等が発生した場合は直ちに現場確認を行い、職員対応と、対応が難しい場合は業者に依頼している。

②橋梁の強度計算については、高千穂町でコンサルに委託し、問題ないとの回答の上、運行している。

Q 市からは負の遺産と言われていますが、その考えに対して何か感じられることが有れば教えてください。

A 負の遺産と考えるか考えないかは、考え方次第である。なにも活用せず放置していれば莫大な撤去費用が必要となり、負の遺産と言わざるを得ない。あまてらす鉄道は、漠然と活用するのではなく、鉄道の歴史と文化を少しでも、観光客等に知っていただくとともに、高千穂を訪れたお客様が長い時間滞在していただく空間づくりを考えて運行している。

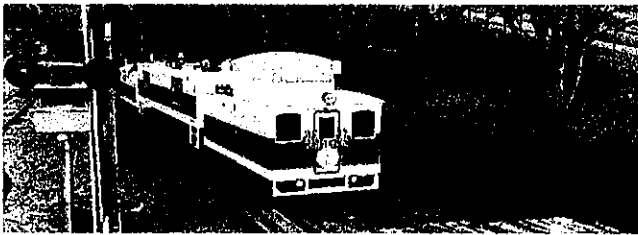
現在、あまてらす鉄道の観光客は少しずつ増加傾向にあり、スタッフ一同知恵を出し合い発展させて、お客様に楽しんでいただけることをモットーに取り組んでいる。組織として、高千穂地域の観光地として、日々努力している。

あまてらす鉄道の活用は、駅構内と線路往復5.1Kmで比較的短い区間ではあるが、職員スタッフの熱意と努力、旧鉄道会社職員という経験もあり、地域の観光施設として認められる組織として発展すると考えられる。

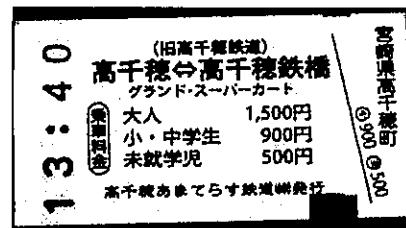
また、周辺には全国的に知られている「高千穂峡」歴史的には「天岩戸」の地でもあり観光客は訪れている。

三次市に置き換えて考えてみるといかがであろうか？三江線として運行されていた時にどれだけの人が利用していただろうか？高千穂鉄道は災害の影響が大きく、復旧が難しく廃線の道をたどったと説明を受けたが、三江線は乗客数があまりにも少なかったからである。

周辺の観光施設があるのか？歴史的に観光客をひきつけるものは？一時期の感情だけでなく、継続性はあるのか！観光の目玉として魅力があるのか！安全性は！いろいろな面で熟慮する必要がある。



グランド・スーパーカート



往復5.1Kmの乗車で大人1,500円



グランド・スーパーカートで橋梁上



近くには「天岩戸神社」もあり、歴史的にも観光客の心ひきつける



視察を行った
真正会・会派ともえ・公明党の議員



列車で説明を受ける
真正会・会派ともえ・公明党の議員

期 間	令和元年10月31日(金)
研 修 先	福岡県うきは市
研 修 用 務	アプリ機能をフル活用し人が集まる「仕掛け」づくりについて
視 察 対 応	うきは市 議会事務局 主任 宮 崎 氏 うきは市 うきはブランド推進課 課長 樋 口 氏 うきは市 うきはブランド推進課 係長 中 山 和 成 氏 うきは市 うきはブランド推進課 係 松 永 直 子 氏
市 政 概 要	人 口 令和元年9月末日現在 29,354人 世帯数 令和元年9月末日現在 11,085世帯 一般会計当初予算 151億6,248万3千円 議員定数 条例定数 14人 現員数 14人 常任委員会 総務産業、厚生文教……2常任委員会
施策の概要	1 うきはプロモーション動画 ① うきはプロモーション動画は、国内プロモーション用で作成した。 2 うきは市 観光パンフレット ① 平成29年度に観光パンフレットをリニューアルした。 ターゲットは、20代～40代……女性の購入が多い コンセプトは、うきは市に来て「女子旅」をして頂く。 3 うきは市の観光資源 ① うきは市は、イチゴ、桃、ブルーベリー、ぶどう、梨、柿、イチジク、キウイなど一年中多種多様なフルーツが実る「フルーツ大国」で、旬なフルーツを楽しむ「フルーツ狩り」を楽しんで頂いている。…うきは市のフルーツは49種 また、列車の「ななつ星」に新鮮で旬なフルーツを搭載している。「ななつ星」セッション(通販)にうきは市の特産品フルーツなどが登録された。 ② うきは市の棚田は、日本棚田百選「つづら棚田」約300枚の棚田(6ha)。棚田保全の取り組みとして、棚田オーナー制度、森林セラピーを導入している。 ③ 筑後吉井白壁のまちなみ(国の伝統的建造物群保存地区の指定)では、近年、おしゃれなカフェや雑貨店が増えている。右肩上がりで起業されている地域です ④ 筑後川温泉5軒、吉井温泉3軒(環境省指定の国民保養温泉地に指定)厳選掛け流し、流れたて、まるやかで「美人の湯」とも呼ばれている。 ⑤ “道に駅うきは”は、じゃらん道の駅満足度ランキング(九州・山口)で4年連続第1位で、国土交通省の重点道の駅にも選定されている。 来客数は年間130万人、110億円の売り上げである。

4 観光情報発信

① マスコミへの情報発信は、ブランド推進課と広報係と連携し、衆に1回以上はリリースしている。平成29年度実績では、テレビ取材＝226件、ラジオ取材＝14件である。

また、県や近隣市町村と連携して、情報誌へも掲載している。

② SNS等を活用した情報発信では、公式キャラクター「うきぴー」のSNSで情報を発信している。フェイスブック、インスタ、ツイッターのフォロワー数は3,000件以上。

観光アプリ「おさんぼうきは」でも情報発信している。

5 観光アプリ

① 平成27年(2015年)に吉井町白壁エリア限定(9月～11月)で、観光アプリ実証実験を実施した。

(おすすめルート紹介・店舗情報掲載・ビーコン対応のクーポン、スタンプラリー)
共同実施事業者は、リサーチアンドソリューション

② 地域の観光情報が自動的に来訪者に届く仕組みを実現する事により、観光客はこれまでガイドブックやホームページで調べて観光地を訪問するが、立ち寄り先は1カ所程度であるが、観光アプリにより観光情報が観光客に届くことにより、観光客が目的地とプラスαとして近くのお店や観光スポットを訪問する気持ちにさせる。

平成27年度実証実験により、多くの方から反響をいただき、うきは全域にエリアを拡大するため、店舗の掲載依頼、アプリ機能の拡大、機能強化のため、システムの構築。

※ 予算額は 約4,800万円 ect

質疑応答

Q 観光アプリを使うきっかけは、発案は？

A ホームページだけでは見て頂けないと考えていたとき、他業種の関係でうきは市に出入りしている業者から提案があり、使うこととした。

Q 女性をターゲットにされているが、外国人への工夫はどのようにされているか。

A ターゲットを20代～40代の女性にしたのは、もともとこの年代層に対しての取り組みが少なかったことと、女性が家庭の会計管理をされている場合が多いからである。また、影響としては、若い女性の観光客が増加している。

インバウンドはあまり増えていない。フルーツ農家に少しだけ訪問がある。うきはの観光客は、大型バスでの訪問でなく、自家用車で阿蘇や湯布院に行かれる途中に立ち寄られることが多い。

Q 小学校の児童に観光教育をされている経緯は、故郷教育？

A 吉井町に白壁エリアに小学校が有り、従前から小学校が白壁についての取り組みが有り、学校と協議をして総合学習の中での取り組みとした。

ふるさと教育は大切な取り組みで有り、幼少の頃から取り組みは必要と考えている。

A 市長は、地域の色々な分野のことを科学的に分析して、地域に誇りを持って欲しいという願いがある。中学校ではカリキュラムがしっかりしていて故郷学習は難しいが、小学校では総合学習の時間があり、その時間を「アプリを活用した観光ICT教育」とした。

Q 観光協会とDMOの現場は……連携は出来ているのか？

A 観光協会は会員中心の活動となる場合が多く、うきは市として全体的な取り組みとするために観光協会は解散した。観光公社としてDMOを立ち上げ市と一緒に取り組んでいる。

Q ブランド推進課とDMOの関係は？

A DMOとブランド推進課は毎週協議して、一緒に取り組んでいる。市としては、市が計画してDMOが実行する方がすっきりしている。

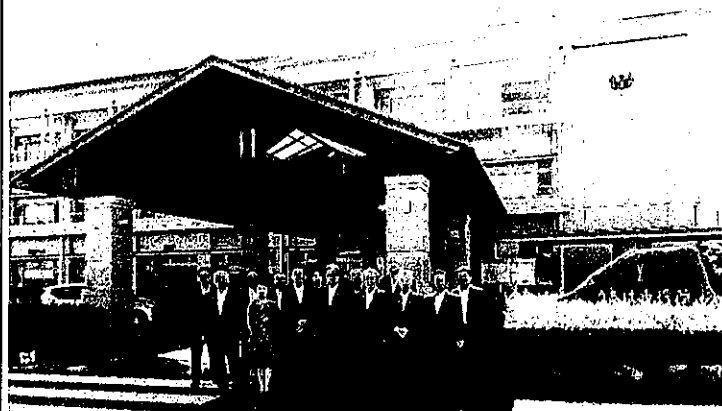
うきは市は山間部と市街地に二分されるように形成されている自治体である。吉井町の「白壁エリア」、フルーツも49種類も栽培されており、年間を通して収穫が出来るそうだ。「観光農園」や「道の駅うきは」は観光地としても、或いは、阿蘇や湯布院へ行く途中に立ち寄っての観光という地で、大型バスより自家用車での訪問が多いうきは市。

そのよう中での観光アプリを活用した情報発信は、大型バスの訪問より、身軽に動ける自家用車で訪れる観光客向けであろう。

三次市でも取り組んでも良いのではないだろうか。

また、観光協会を解散させてDMOの観光公社を立ち上げると言うことは行政の一方的な強権に思えてならない。三次市議会議員の問いに「市が計画して観光公社が事項する」というようなお答えであった。

三次市においては、観光協会が旧三次市、君田町、作木町、三良坂町、甲奴町に設置してあるが、観光協会を解散して、三次市一カ所活動する事は、市域の広い三次市においては難しいと考える。むしろ、観光協会を合併して全ての支所管内に支部を設置し情報の一つにして発信すべきではないだろうか？



うきは市庁舎の前で。